

第58回

神奈川県 美術展

THE 58TH KANAGAWA ART EXHIBITION 2023

全国公募展

第58回神奈川県美術展

The 58th Kanagawa Art Exhibition 2023

1期展 [平面立体]
2023年9月6日(水)～9月17日(日)

2期展 [工芸・書・写真]
2023年9月20日(水)～10月1日(日)

会 場
神奈川県民ホールギャラリー

巡回展
2023年11月3日(金・祝)～11月11日(土)

会 場
鎌倉芸術館ギャラリー

主 催
神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県

共 催
鎌倉市芸術館指定管理者 鎌倉市芸術文化振興財団・
国際ビルサービス共同事業体

協 賛
(公財)はまぎん産業文化振興財団
神奈川県文具事務用品団体連合会
(株)ホテル、ニューグランド
松田油絵具(株)
(一財)神山財団

後 援
神奈川新聞社・NHK横浜放送局
tvk・FMヨコハマ

第58回 神奈川県美術展 関係者名簿

(2023年9月6日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 磯見 輝夫
副委員長 鈴木 達也

委員
水沢 勉 中尾 拓哉 三谷 理華
吉田 有紀 狩野 智宏 花里 麻理
石坂 雅彦 日守菜穂子 藤村 里美
村上 仁一 高橋 康夫 薄井 英男

審査員

平面立体
AKI INOMATA 小野 耕石 新恵美佐子
中尾 拓哉 水沢 勉

工芸
狩野 智宏 橋本 圭也 花里 麻理
松島さくら子 留守 玲

書
石坂 雅彦 大林 靖芳 齊藤 紫香
名児耶 明 水川 舟芳

写真
小原 真史 戸田 昌子 鳥海 早喜
藤村 里美 村上 仁一

応募・入選・入賞者数一覧

	平 面	立 体	工 芸	書	写 真	合 計
応 募	295人 (365作品)	77人 (87作品)	124人 (133作品)	116人 (116作品)	233人 (588作品)	845人 (1,289作品)
入 選	74人 (76作品)	22人 (22作品)	75人 (78作品)	83人 (83作品)	53人 (53作品)	307人 (312作品)
内、入 賞	9人 (11作品)	4人 (4作品)	9人 (9作品)	9人 (9作品)	9人 (9作品)	40人 (42作品)

※入選・入賞数は、2023年7月20日時点で確定した数字です。

ごあいさつ



神奈川の文化芸術の力を結集した神奈川県美術展を今年も盛大に開催できますことを、主催者の一人として大変嬉しく思います。また、この美術展の開催に当たり御尽力いただきました関係の皆様方に、心からお礼申し上げます。

今年で第58回を迎えるこの美術展は、県内最大規模の公募美術展として、長年にわたり神奈川の美術界を牽引してきました。昭和40年の創設以来、芸術家を志す方から、趣味として創作活動に取り組まれる方まで、幅広い方々に御出品いただいております。本美術展の水準は非常に高く、入賞を契機に、全国、そして世界へと羽ばたいていかれた方も数多くいらっしゃいます。

今回も、全国から数多くの優秀な作品が集まり、平面立体、工芸、書、写真の4部門合わせて1,289点にのぼる応募がありました。

会場には、数々の力作の中から厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品の数々が展示されています。作家の方々が心を込め、自由な発想で表現した作品は私たちを大いに魅了することでしょう。

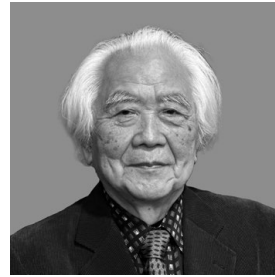
県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組を推進しており、昨年度からは「かながわ県民文化祭」を9月から12月にかけて開催しています。これは県内各地での文化芸術活動を集中的に広報することで、一気に盛り上げていこうという取組で、本美術展はその主な事業の一つです。期間中には美術に限らず多様な文化プログラムが県内全域で行われますので、ぜひ御参加ください。

最後に、このたび御出品いただきました皆様の創作活動へのたゆまぬ努力と情熱に深く敬意を表しますとともに、皆様のますますの御活躍を心からお祈り申し上げます。

令和5年9月6日

神奈川県知事 黒岩祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、県民文化の向上と芸術家の育成に寄与することを目的に開催する、県内最大規模の公募美術展です。昭和40年から続く美術展として、広く県民に親しまれるとともに、新進作家の登竜門として多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに多くの皆様のご尽力の賜物と、心より感謝を申し上げます。

この度の第58回では、北は北海道から南は九州まで、10歳から93歳までの皆様から1,289作品ものご応募をいただきました。また、外国籍の方からのご応募が年々増えてきたことも、広く開かれた公募美術展として認識されてきたものとして、大変喜ばしく存じます。さまざまな想いのもと制作された数多くの力作を前に、本展に臨まれ出品された全ての皆様に敬意を表したいと思います。

会場には、厳選なる審査を経て選ばれた、全312作品の入賞、入選作品を展示いたします。本展は、多様な作家達による、多彩な美術作品を一堂にご鑑賞いただける絶好の機会です。同時開催となる「中高生特別企画展」「ともいきアート展」とあわせて、ぜひお楽しみください。

さて、神奈川県美術展が始まった当初は、県内各地に分散した会場で展覧会を行っていましたが、第10回（昭和50年）より神奈川県民ホールギャラリーで開催し、現在に至っております。同館は令和7年1月に50周年を迎えますが、建物の老朽化の影響もあり、令和7年3月末をもって休館することが発表されました。この神奈川県美術展においても次回の第59回が一つの節目となることが予想されますが、今後も未来への展望を持って、地域の芸術文化の発展に貢献していきたいと存じます。

最後に、作品をご応募いただいた皆様、審査員、委員並びにご協力をいただきました関係各位、展覧会に足をお運びいただきました皆様に篤く御礼申し上げます。

令和5年9月6日

神奈川県美術展委員会委員長 磯見輝夫

目次

1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体	6
入選作品目録 平面	7
入選作品目録 立体	8
審査講評 平面立体	9
平面立体 受賞作品	10

2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真	20
入選作品目録 工芸・書・写真	21
審査講評 工芸	24
工芸部門 受賞作品	25
審査講評 書	31
書部門 受賞作品	32
審査講評 写真	38
写真部門 受賞作品	39

平面立体

1 期展

受賞作品目録

平面立体

大賞	平田 守	相模原市	My IKEA painting work (花瓶とまつ毛と棚) My Bacchus (Green)	平面
準大賞	志村 ねね	埼玉県	ふと思い、重なる	平面
特選	澤田 将哉	相模原市	Caravan No.2_Co-Creation Space	立体
奨励賞	大久保智子	茨城県	moire 2307	立体
かながわ賞	竹野 優美	真鶴町	遠いまなざし	立体
かながわ賞	浜田 優花	相模原市	shelter/greenhouse	平面
県立近代美術館賞	石原 陸郎	横浜市	まるい命	平面
県議会議長賞	伊藤 庭花	東京都	杜の精霊	立体
美術奨学会記念賞	中根 航輔	横浜市	Hako-niwa	平面
美術奨学会記念賞	李 佑安	相模原市	404号女	平面
はまぎん財団賞	さまたろう	藤沢市	pray #2	平面
マツダ賞	林 緑	埼玉県	いつかのモーニング	平面
神山財団賞	後藤 瑞穂	相模原市	土を掴む少女、スコップを持つ少女 I 土を掴む少女、スコップを持つ少女 II	平面

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の方を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞は、神奈川県立近代美術館による作品買上げ賞です。

※県議会議長賞は、県議会議長より贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、35歳以下を対象とした賞です。

※はまぎん財団賞は、(公財)はまぎん産業文化振興財団より贈られる賞です。

※マツダ賞は、松田油絵具(株)より贈られる賞です。

※神山財団賞は、35歳以下を対象に、(一財)神山財団より贈られる賞です。(2023年度新設)

※県立近代美術館賞以降の賞は、創設順に記載しています。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

平面

相沢 克人	年頃の女達、若しくは、 インコの小さな群れ Ladies in that age, or, small flock of parakeets
浅賀 敬子	龍宮城
葦野 三里	自画像
LEE Jaehee	New sensation
飯村 優介	水象ヤマカミ 23
石井 里枝	七里ヶ浜夏祭り
井上 京子	拈華微笑-2
今井 陽子	散華楽 - flower fall -
宇田川 愛	ふるさとを持たない風
宇文 藤玥	鏡花水月Ⅱ
王 潔茹	雨を泳ぐ
小河 彩乃	物陰の眺め
オノ チカ	オルタナティブな草原
オノ・ヨシヒロ	Yokohama 未来図 '23
何 承霖	白山X
河原條勝己	意識(またいつもの日常が続く)
黒石 大史	セミ
小俣 花名	ご馳走
堺 大輝	Self-Portrait
坂本久美子	Line
櫻井あや乃	我々のいるところ
笹井 弘	Human Traces (人跡) NO.456
貞益 未菜	心海
佐藤 英行	粘土山
佐野 実咲	Black Detail - 雲 - no.1
下館アンジー	紙とミカン
徐 梓淳	旧夢
申 林	優勝の記念
seii	瘡蓋2
瀬川 寛	防風林／常呂町
高澤 伸行	Black Rain F
高森 史奈	here
知久 茂雄	記憶の街
千代 泰睦	ガンダーラ
張 安迪	with
塚原 るな	畏怖
中嶋 弘樹	forma (aquascape)

中村 文俊	と或るアンダーグラウンド
二井矢春菜	桑の実のある景色
八田 亜美	Last Universal Common Ancestor
ハンエイゴウ	ロマンスに浸る
檜山 亜紀	メメントモリ
HIROMAT	本能と理性 ジャン＝フランソワ・ミレーに捧ぐ
藤本 恭子	内に浮遊した囲い
藤谷 なみ	みちたりたところ
古屋 梓	Exc
ホ ユア	隙間の幻
細谷虎太郎	南国のパレード
穂積 咲季	6月、park、昼下がり
松村 美保	人間万事塞翁が馬
マネキネコ	無題
三木 彰太	Urban life
三津 繁郎	泥棒
宮川 遥弥	風の受けとり方
三輪奈保子	6,6,o-fes,p.l.
安本倫美子	Mineral Owls
矢野 憩啓	In the bathroom
山崎 拓巳	Untitled.
余 璐妍	ボーダーラインへ
吉岡 瞳	つみき
羅 浩鳴	人造夢楽園
Rin	子供の失楽園
和田紗代子	長い夢から覚めた途端、 別の長い夢を観ている気がした
藁科 美穂	無言の音 - 宙 -
我	MIRROR STAGE 3

※掲載は50音順です。

立体

阿部 佳明	たゆとう筏
荒木 八雲	swing-by : goodbye
岩館えり子	Hallucination in the box
内山翔二郎	紙魚
黒樫 一步	母になるということ
小島 美香	Strong coffee
杉田 安良	平面から展開する立体
田附 希恵	樹皮
Tomoji	「世界平和のマニ車」令和の祈り
BIAN KA	AI Dating
松本 佳樹	東日本大震災“津波”
Momoka Nakazawa	Hour glass
矢部もなみ	どうも、こんにちは。 あなたは誰ですか？
山本満里奈	を
YU XIAOKAI	Untitled (Lovers・Family・STDs)
若栗 由京	トモ
和田 祐香	Sparkling Grains
渡部 信隆	廻遊

第58回の平面立体部門には、平面が295人から365作品、立体が77人から87作品の応募があった。応募者および応募作品の総数を昨年と比較すると、平面が60人・70作品、立体が22人・21作品増加している。

一次審査は投票制で、結果的に審査員が2名以上投票した平面76作品、立体22作品が入選となった。私の体感では、審査員それぞれの審査基準は同じ方向を向いていたわけではなく、それゆえ、審査員が異なれば2票での入選作品の傾向は若干違っていたように思う。けれども、そうしたなかで4、5票を獲得した作品、何よりも入賞作品は各審査員がもっている複数の審査基準を超え、議論に耐えうる作品であったことは明らかであった。

もっとも議論がなされたのは、大賞の平田守さんの《My IKEA painting work（花瓶とまつ毛と棚）》《My Bacchus（Green）》と、準大賞の志村ねねさんの《ふと思い、重なる》についてである。平田さんの作品は高度に練られた絵画表現で、2作品間には色（赤と緑）、サイズ（150号と30号）、モチーフ（IKEAとバッカス神）のコントラストがあり、金属フレームで固定されたキャンバスや、キャンバスのフレーム内につくり出された厚塗りの絵具のレイヤーなど、平面絵画の枠組と構造に対して自覚的なアプローチが試みられていた。志村さんの作品は、室内を描いた静物画のような、そして屋外を描いた絵巻物のような、異なる絵画空間が自由なスケールで緩やかに重ねられていて、誘導される視線とともに絵の中を歩き、異時同図的な空間に惹き込まれていく魅力があった。両作品のあり方や方向性が大きく異なっていたため、審査員は限られた時間の中で対話を重ねたが、完全な合意には至らず、最終的には多数決で決定し、僅差で現在の受賞の順となったことを記しておきたい。

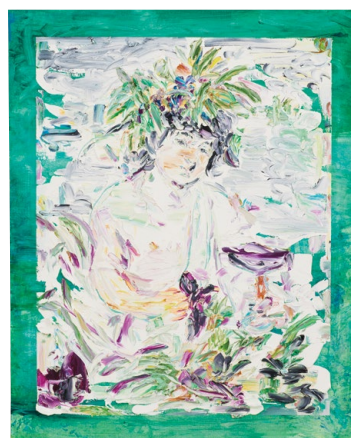
今回、大賞の平田さんの2作品、および神山財団賞の後藤瑞穂さんの《土を掴む少女、スコップを持つ少女》のⅠとⅡは、2作あわせて評価する結果となった。後藤さんの作品は、1作品の絵画空間内の間が、互いの絵画空間同士の間で広がりや合わさる

ことでさらなる効果をもつ。数点をシリーズとして出品している応募者は少なくなかったが、過去には応募作品が複数ある場合はそのうち1点を入選とする方法が取られてきた。しかし、上記の作品はそれぞれが入選としての基準を満たし、またペアとして展示されることに意味があるというほどに作品間の結びつきが強かったため、審査会での協議の結果、4作品とも入選とし、賞に限っては各1作品であるため、2作品同時に各賞を授与することで合意した。

審査では、平面は作品とタイトル以外の情報が隠されたままで行われる。他方、立体はそれ以外にコンセプトやステートメントが含まれている場合がある。これは立体の審査が応募者の指示による「展示された状態」で行われるためであるが、今後は平面もコンセプトやステートメントを含めた上での審査を検討してもよいだろう。この提案は出品作品について必ずしもコンセプトやステートメントを示さなければならないということではなく、むしろ現代美術の作品がさまざまなあり方で表現されるとき、コンセプチュアルな作品の意図に対する公平性を保つためのものである。

特選となった澤田将哉さんの《Caravan No.2_Co-Creation Space》は、コワーキングスペースの増加に言及するステートメントとともに展示された作品であった。物の所有ではなく、その活用にこそ意義を見出していく社会の動向に対して、テーブルと自転車を組み合わせた本作は、シェアサイクルの普及やコミュニティ形成、そして地方アートプロジェクトにおける移動ならびに交流方法を、現場のイメージを喚起させつつ再考させるものであった。

結果として、数多くの作品を通じ、審査員それぞれの判断基準をもとに交わされた対話によって、多様な作品が入選することにつながったに違いない。作品の評価は、その作品が発するさまざまな情報との対話であり、そこでは審査員もまた試される。一つの基準のもとに作品が並置されていくことよりも、多数の作品のあり方が発見されていくよう、今後もいっそう意欲的な作品が出品されることを期待している。



大賞

My IKEA painting work (花瓶とまつ毛と棚)

平田 守

綿キャンバスにアクリル絵具・油絵具
227.3×181.8cm

My Bacchus (Green)

麻キャンバスにアクリル絵具・油絵具
金属フレーム (SS400) など
91×72.7cm

[略歴]

1989年 埼玉県生まれ 現在は神奈川県相模原市に在住
2019年 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了

[主な展示]

2018年 絵画・運動 (ラフ次元)、四谷未確認スタジオ、東京
ドキドキ! 夏の新美ダウンロードキャンペーン、SHINBI GALLERY、東京
いつだって画像はコピーされる事を望んでいるかもしれない、Blan Class、
神奈川
2019年 BankART AIR 2019 OPEN STUDIO、BankART Station、神奈川
2022年 ときめき絵画道、HB.Nezu、東京
2023年 素的な力のかかり方、うららか絵画祭にて開催、The 5th Floor、東京
隙間の掻き傷、Penguin's House Green、神奈川
BankART AIR 2023 SPRING OPEN STUDIO、BankART Station、神奈川

[アーティストインレジデンス]

2019年 BankART AIR 2019 OPEN STUDIO
2023年 BankART AIR 2023 SPRING OPEN STUDIO

[受賞歴]

2017年 多摩美術大学 卒業制作 福沢一郎賞



準大賞

ふと思い、重なる

志村 ねね

高知麻紙・岩絵具・水干絵具・クレヨン・色鉛筆
156×220.6cm

[略歴]

2001年 埼玉県生まれ
2020年 埼玉県立芸術総合高等学校美術科 卒業
2023年 武蔵野美術大学造形学科4年 在籍中

[展示]

〈グループ展〉

2020年 「表現者たち展」(隅田公園リバーサイドギャラリー／東京)
「えんそく展」(所沢東口市民ギャラリー／埼玉)
2021年 「新雪の美術展」(横浜市民ギャラリーあざみ野／神奈川)
2022年 「サムホール展」(銀座中央ギャラリー／東京)



特選

Caravan No.2_Co-Creation Space

澤田 将哉

ミクストメディア

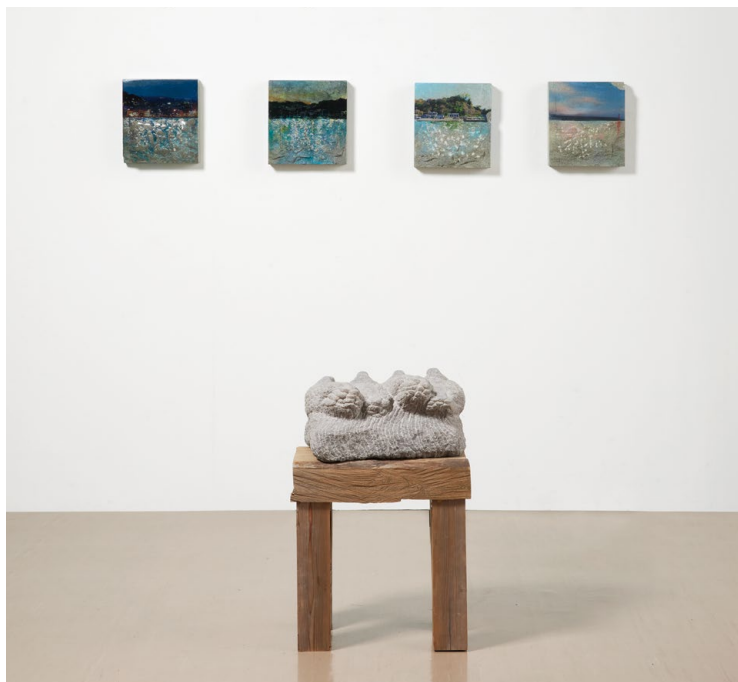
110×210×80cm

奨励賞

moire 2307

大久保 智子

木材・糸・塗料
240×240×30cm

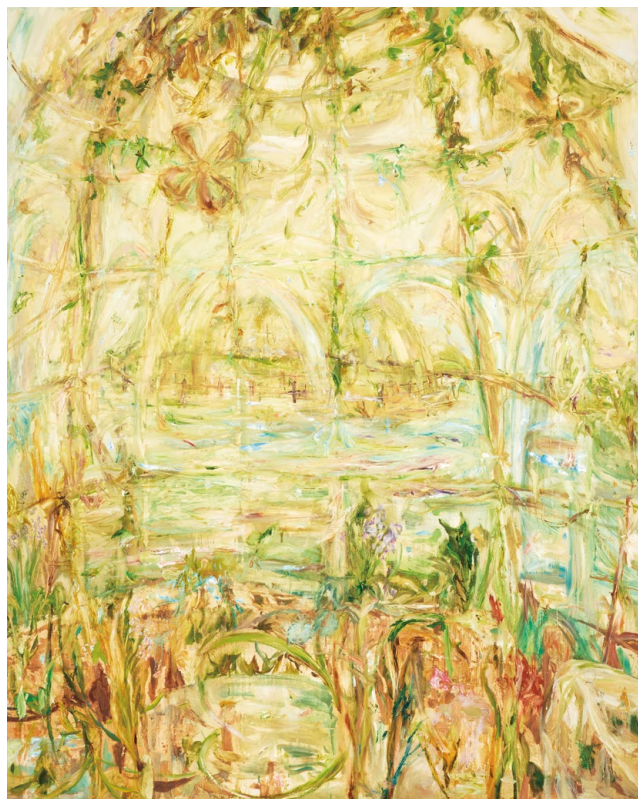


かながわ賞

遠いまなざし

竹野 優美

沢小松石・本小松石・アクリルメディウム
200×200×200cm



かながわ賞

shelter/greenhouse

浜田 優花

油彩・キャンバス
227×181cm

県立近代美術館賞

まるい命

石原 陸郎

木版画・土佐和紙
170×170cm



県議会議長賞

杜の精霊

伊藤 庭花

ドウダンツツジ・刺繍糸・
ワイヤープランツ・紅絹（もみ）
300×300×300cm



美術奨学会記念賞

Hako-niwa

中根 航輔

麻紙に岩絵具・銀箔
84×200cm



美術奨学会記念賞

404号女

李 佑安

銅版・エッチング
81×62cm

はまぎん財団賞

pray #2

さまたろう

布・岩絵具
194×130.3cm



マツダ賞

いつかのモーニング

林 緑

アクリル・胡粉・キャンバス
162×162cm



神山財団賞

土を掴む少女、スコップを持つ少女Ⅰ

土を掴む少女、スコップを持つ少女Ⅱ

後藤 瑞穂

油彩・キャンバス(麻)・木枠
162×194cm

工芸・書・写真

2 期展

受賞作品目録

工芸

大賞	間瀬 春日	鎌倉市	おへそクッション	漆
準大賞	金子 博子	横浜市	ほころぶ	ガラス
特選	林 美来	東京都	私を巡る世界	染織
奨励賞	はらだひまわり	東京都	通勤電車	ガラス
かながわ賞	鳥元 哲哉	平塚市	糸連華	ストリングアート
かながわ賞	佟 昊霖	相模原市	鴉二羽	金工
美術奨学会記念賞	洪 詩楽	東京都	夕刻	ガラス
美術奨学会記念賞	西村 柊成	東京都	surround	染織
ホテルニューグランド賞	LIU YUFAN	広島県	森	漆

書

大賞	上田 昌子	海老名市	新幹線（東日本 Ver.）
準大賞	比留川秀水	綾瀬市	石田章子の俳句
特選	浅香 麗芳	埼玉県	王昌齡詩
奨励賞	猪狩 春葉	横浜市	千女の句
かながわ賞	河田 玲洸	伊勢原市	月夜には
かながわ賞	楠瀬 六香	川崎市	ゆきがふる
美術奨学会記念賞	小山 蘇龍	川崎市	強至詩一節
美術奨学会記念賞	角田 翠皎	横浜市	川風
県文具事務用品団体連合会賞	大山 蘭翠	横浜市	藍深く

写真

大賞	餌取 裕也	東京都	山岳独行	
準大賞	近藤まさき	横浜市	水模様、鳥模様	3 枚組
特選	當麻 妙	鳥取県	The voice that's calling 02	3 枚組
奨励賞	長尾マサキ	東京都	planetia	3 枚組
かながわ賞	勢井浩二郎	横浜市	Nightcrawler	3 枚組
かながわ賞	八代 一二	座間市	盆景	
美術奨学会記念賞	殷 鶯	川崎市	Hypnopompic Hallucinations	3 枚組
美術奨学会記念賞	山田 龍	葉山町	空魄庭園	3 枚組
神奈川新聞社賞	野田 光治	鎌倉市	卒寿の輝き	3 枚組

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の方を対象とした賞です。

※美術奨学会記念賞は、35歳以下を対象とした賞です。

※ホテルニューグランド賞は、工芸部門において（株）ホテル、ニューグランドより贈られる賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、書部門において神奈川県文具事務用品団体連合会より贈られる賞です。

※神奈川新聞社賞は、写真部門において神奈川新聞社より贈られる賞です。（2023年新設）

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

工芸

赤岡真夕子	想ふ花	陶
秋山ハマ子	紅葉狩	人形
ami*ami	shared joys and sorrows	編み物
新井 愛奈	memoria	刺繍
アラキケイ	Variation	テキスタイル(織)
安齊まりな	大地の輪	縮絨ウール
石田 季子	森の奥には	立体画
石田 季子	男たちのブローチ	ジュエリー
石橋 伸一	「元旦富士」江の島にて御来光を受けて	漆塗り
石原 敏雄	古刹	紙芸(切り絵)
いのうえ真弓	柿渋染帯のルダンゴト・バッグ	着物リメイク
植松 竹邑	キャロル「鳥の歌」	竹工芸
宇佐美夏樹	飛来	陶
内田 節子	The earth	陶
生頼美砂恵	冠	陶
北垣 幾子	Memory	刺繍とアップリケ
黒田 耕嗣	声なき叫び、ウクライナ, 2023	ガラス
小酒井基紘	にわとり	綴れ織り
興石 孝志	ベルベットガーデン	彫刻切り絵
興石 孝志	Gate of Reincarnation	彫刻切り絵
小島 昭博	ないほう	ガラス
小島 早椰	My color	刺繍
小竹 章子	銀河	陶芸
小林久仁子	闇を照らすもの	人形
小山 照子	螺鈿沈金「紫陽花」	漆
佐藤 格	つまむ	木工
佐藤 碧	Capture the gleams	染織
佐藤 碧	Kinderszenen Op.15	染織
さとうやすこ	子麒麟	陶
佐藤 幸恵	気色	ガラス
篠原 祐介	ザ ハマ	皮革
下 虎之介	INVADER「No.01-POC」	金工
下平久美子	ペトリコール	陶芸
白井 綾乃	待つて。	金工
鈴木 貴久	螺旋の器	陶
鈴野正次郎	暁	木材工
橘 葉子	色絵呼継うさぎ富ぶ	陶磁器

田中 蘭	存清色紙箱「木立盧會」	漆
田宮由美子	吉祥「橋本雅邦 龍虎図より」	メタルアート
土田 梓	つづき	染織
永井 優里	胸懷	陶
西山 尚志	祈りの圧	ガラス
のまなつみ	しあわせのうつわ	陶
濱本 美夢	雲のたわむれ	染織
早川 真弓	CUBE 2023 乱	陶
林 あゆみ	風花	ガラス
原 勝彦	鬼鱗文灰かぶり花器	陶
彦屋千代蔵	ハチドリ祭の祭典	つまみ細工 日本刺繍 草木染め
土方 尚子	夢みる休符	陶
日高 舞	滲透	陶
Fukukiyo	積もる	布花
藤田貴世美	百花繚乱 世界14ヶ国等文化交流での思い出ー笑顔の花(2000個)が咲きほこります	パッチワーク・キルト
二俣 吉秀	革盆「羽ばたく」	皮革
古坊 聖子	じっと見る	陶
細田 のな	すくうもの	ガラス
堀 知賀子	あそび	染色
正木絵里子	夜灯回遊円文碗	ガラス
村越 敬太	街	陶
森 あゆ	偶の女神	陶
森 寛恵	こもれば	刺繍
森本 菜南	その先に	陶
家才子雅樹	怒りの雫2nd	陶
柳川 千秋	樹々	染織
柳菜	十一猫観音菩薩立像	日本刺繍
山田なぎさ	おしずかに	染織
山西なつ美	支えられるもの	漆
山本 淑子	Bonnou Quilt	染織
yuki takayama	cloud chairーくものイス	ニット
陸 楠	芽生える軌跡	ガラス

※掲載は50音順です。

書

青樹 堯瑩	贈山中日南僧 張籍
浅見 玲湖	奉観厳鄭公庁事岷山沱江画図十韻
安達 晴子	古今和歌集
阿部 茜蝶	雨もよう
池田 凰悦	同友登京口避風館高閣望江題壁
石井 栖志	詠月
石倉 彭寿	送章彝下第
石塚 紗知	あしたも晴れ
稲垣 奏庭	義悠の句
岩浪 由美	日ののぼる時
牛山 香流	李煜詞 烏夜啼
柿沼 芳秋	舟中
笠原 啓子	天上の青
片岡 雪燁	拙堂詩
片岡 稲處	王維詩
上村 泊舟	江行望識舟亭
亀井 典子	山居秋暝
亀田 英舟	馬振拝造像記
茅 幸子	晩夏の夕景
川上真理子	素直なままで
川崎 純子	沈黙の愛
川島智恵子	別れ
河又世津子	あをぎりの
清澤 可實	珠玉の野ぶどう
久村 拓司	四季かまくら
児玉 真理	言の葉は玉響
小林 史青	夏目漱石の句
相根 恒舟	百人一首
篠 能里子	鳴沙降る日
清水 理佐	春くれて
鈴木 游舫	夢へのあゆみ
高橋 菊枝	鳴沙降る日
高橋 早苗	水玉旅情
高原 香蘭	天地といふ名の
竹内絵里子	晩夏の恵み
玉井真知子	小倉百人一首抄
津田 雪松	古今和歌集
鶴賀 一漣	臨・香紙切
傳甫 菁月	万葉集より

富田 祐二	送友人尉蜀人
富塚 香峻	蘇東坡詩 望海樓晩景五絶二首
鳥海 花春	秋 はぎ
内藤 満里	古石硯
長井 黙庵	鈴木祐子の「セビリヤの大聖堂」
中西 晃雪	ちはやぶる
長野 和美	空ばかり眺めていた
永吉 仁	有教無類
名執 裕子	荊州の歌
西野 青燕	五月の雨
日守 鍊	はじまりの響き
沼田 宣子	愛無限
濱口 佳舟	望中條山有懷吳天章玉溪隱居
林 蘭愛	無数の星達のいる街
平澤 毅	強く優しく
深沢 和子	藤井青年対局を終えて
深田 東穂	朱熹詩「醉下祝融峰」より
藤田 鯉水	寄吳廷圭
古里 航	白駒過隙
古矢 春喧	司空図詩「下方」
本間 琴秀	短歌 窪田空穂の歌
前橋 蒼峻	野田行
松井 玲翠	與諸子登山見山 孟浩然詩
松浦 敏恵	夜
松本佳乃子	下終南山過解斯山人宿置酒
水川 雙竹	五嶺
水野 彩苑	手を合わせるその先に
三橋 和泉	邵長蘅詩
宮明 恵子	荒地
森 俊行	天の羽衣
両角 花生	桜の記憶
矢野 龍谷	東西南北
山本 清子	菜穂の詩
吉留 真理	清涼の朝
吉村 明子	富士山

※掲載は50音順です。

写真

相澤 演義	シャッターは演じる	3枚組
池 厚一郎	天空への階段	
池上 晃	最後の晩餐 (AI生成画像による)	2枚組
石田省三郎	Nights, Walking Chigasaki	3枚組
伊藤 敏児	秋の歩道	2枚組
伊部 慶一	孤往	3枚組
岩崎 茂樹	時をあゆむ純喫茶	3枚組
hp	枯れてビニール	3枚組
大澤 勇	未知との遭遇	
小関 新	抜け道 国道	2枚組
Guo Xiaoying	流動、変化	
片柳 拓子	delusion of control	3枚組
加藤 豁子	穏やか	
加山 邦輔	記憶1965京浜地区メモ	3枚組
北口 明子	春時雨、君と	
小杉美千代	無言の叫び	3枚組
Zachary Y. Wang	遠方 faraway	3枚組
新城 英一	懐かしの銀ブラ	3枚組
助川 貞義	水光写真 水と油 C	
鈴木 紘之	この道ひとすじ	
鈴木ちあき	Birthday Wishes	
高野 光	深邃	
汰中沙由香	密やかな浮遊	3枚組
田中 託未	ありふれた木にブルースをうたわせれば	3枚組
津田 祥夫	As time goes by	2枚組
土田圭之助	暗闇に向う	
デイビス恭子	静謐	3枚組
鳴海 廣治	シルエット	3枚組
haco	夢路～みなとみらいの空へ	
羊	蝶	
平本 昌義	雨上がる ヤンゴン	3枚組
福田 一幸	ストリート寸景	3枚組
星子 桃花	島を渡る	3枚組
松山 文彦	既視感	3枚組
峯岸 誠一	終焉	3枚組
山口 郁斗	青春、夢散、それと自分	
山口 真里	初雪化粧	

山野辺杏菜	昼下がりの発明家たち	
山本 弘之	胤	3枚組
やまもとみえこ	われる、のまれる	2枚組
湯本 陽湖	波風	3枚組
Rieko Suzuki	空が晴れたら、明日も	3枚組
LIU TIANYI	space	3枚組
渡辺 亜美	巧み	2枚組

※掲載は50音順です。

本年度の工芸部門への応募は124人で、1人2作品までのエントリーが可能なことにより、応募総数は全部で133点を数えました。

審査会場を一巡したときには、小ぶりの作品が多いとの印象を持ちましたが、個別に見ていくと、応募者それぞれが自身の思いを丁寧に表現しようとした結果の大きさであることが分かり、内なるものを外に向かって発散するように表現するというより、静かに見据えるほうが「今」の時代の気分であるとの思いを強くしました。

審査は、入選作品78点を投票で選出した後、賞候補となる作品を改めて投票で絞り込み、再びの投票と合議によって大賞、準大賞を選考し、その他の賞については、受賞条件を考慮しながら決定しました。

以下に、各受賞作品について、審査員が着目した点を紹介します。

大賞を受賞した間瀬春日さんの《おへそクッション》は、乾漆技法の特徴を生かした作品です。一見するとほち切れそうな膨らみですが、天辺の凹みをチャームポイントにして、全体にわずかな起伏をつけています。有機的な形が見えない中身をいろいろと想像させます。アイデアとそれを実現させる技術力とが高く評価されました。

準大賞の金子博子さんのガラスの作品《ほころぶ》は、聖なるモチーフを現代的な色調と諧謔みのある描写で表現していてインパクトがあります。この独特な世界観が、他のモチーフや少し大きな寸法の作品になった場合にどのように表現されるのか、興味が惹かれました。

特選を受賞した林美来さんの《私を巡る世界》は、メルヘンの断片、エキゾチックなモチーフ、闇に沈む都会など、作者のパーソナルな世界への鍵がカラフルな色調のなかにちりばめられています。染めの配色や丹念な刺繍から制作時の熱量を感じさせます。この作品を起点にデザイン的に洗練させていくと、よりダイナミックな表現が可能になるように思いました。

奨励賞は、はらだひまわりさんのガラスの作品《通勤電車》です。電車で揺られて会社に通う人々の

姿を抽象化した群像表現です。昨年の美術奨学会記念賞の受賞者ですが、持ち味のシニカルな視点を保ったまま、描写力が増したように見受けました。

県内在住者を対象とするかながわ賞を受賞したのは、鳥元哲哉さんと佟昊霖さんです。鳥元さんのストリングアート《糸連華》は、ピンを抛り所に糸を貼りめぐらして紋様を構成しています。糸の重なりが紋様に不思議な奥行き感をもたらしています。デザイン力はもちろん、手順を考えるなどの構想力なくしては出来ない作品です。

佟さんの金工作品《鴉二羽》は、銅と鉄それぞれの素材の特徴を生かしています。鴉を骨格で表現したのは、素材からの直感的発想と想像しますが、作品に際立った効果をもたらしています。

35歳以下を対象とする美術奨学会記念賞の受賞者は西村終成さんと洪詩楽さんです。西村さんの染織作品《surround》は地模様の連続パターンとたゆたうように変化する色彩とが絶妙なアンサンブルを見せています。

洪さんのガラス作品《夕刻》は、ガラスを積層させて日没のスペクトルを表現しています。ガラスの透明感やあやうさに刻々と変わる空の色を託したように見受けました。

ホテルニューグランド賞を受賞したのは、LIU YUFANさんの漆芸作品《森》です。樹木の描写と漆の質感とがたくみに組み合わせられた作品です。深閑した森の様子が見事に表されています。

工芸における表現は、素材の特性や質感を自身の表現に引き寄せていくことにあります。その際、技術は必要ですが、たとえば、乾漆の原形に発泡スチロールのような現代的な材料を使ったり、着物のように従来の形式を用いたりするなど、新旧のさまざまな方法を選択することができます。気づきやひらめきなどの柔軟な選択が工芸の表現の可能性を広げるように思います。



大賞

おへそクッション

間瀬 春日

漆・麻布・発泡スチロール
23×32×31cm

[略歴]

1998年 神奈川県生まれ
2021年 金沢美術工芸大学 美術工芸学部工芸科 卒業
2023年 東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 修士課程在籍中

[主な展示歴]

2019年 問屋まちスタジオ アーティスト・イン・レジデンス2019 唄うパパエヴァ、
たゆたうたう（問屋まちスタジオ、石川県）
2020年 金沢のしきたり展（アートグミ、石川県）
2021年 金沢美術工芸大学卒業制作展（21世紀美術館、石川県）
2022年 個展「ことなるもの」（Artshop 月映、石川県）
2022年 2人展「層をなす/be in layers」（kumagusuku、京都府）



準大賞

ほころぶ

金子 博子

ガラス
18×23×23cm

[略歴]

1977年 神奈川県横浜市生まれ
1998年 武蔵野美術大学短期大学部
工芸デザイン専攻陶磁コース卒業
2000年 東京ガラス工芸研究所基礎科修了
2004年～2007年 金沢卯辰山工芸工房
ガラス工房研修

[受賞歴]

2005年 金沢市工芸展金沢市長奨励賞（石川県）
2006年 金沢市工芸展金沢市工芸協会会長賞（石川県）
2006年 第3回 KOGANEZAKI・器のかたち・現代ガラス展
藤田喬平賞（静岡県）
2011年 第6回月のイラストコンテスト佳作（講談社フェーマス
スクールズ主催）
2022年 第4回丹波アートコンペティション奨励賞（兵庫県）

[作品収蔵]

黄金崎クリスタルパーク（静岡県）

[公募展入選歴]

1998年 New Glass Review 21（アメリカ）
1999年 世界工芸コンペティション in 金沢（石川県）
2000年 神奈川県美術展／平面・立体部門（神奈川県）
2003年 第4回現代ガラスの美展 IN 薩摩（鹿児島県）
2004年 Glass Craft Triennale 2004（兵庫県）
2005年 第2回現代ガラス大賞展・富山（富山県）
2006年 第8回大分アジア彫刻展（大分県）
第3回現代ガラス展 in 山陽小野田（山口県）
2008年 第3回現代ガラス大賞展・富山（富山県）
2022年 第4回丹波アートコンペティション（兵庫県）



特選

私を巡る世界

林 美来

絹

171×130cm

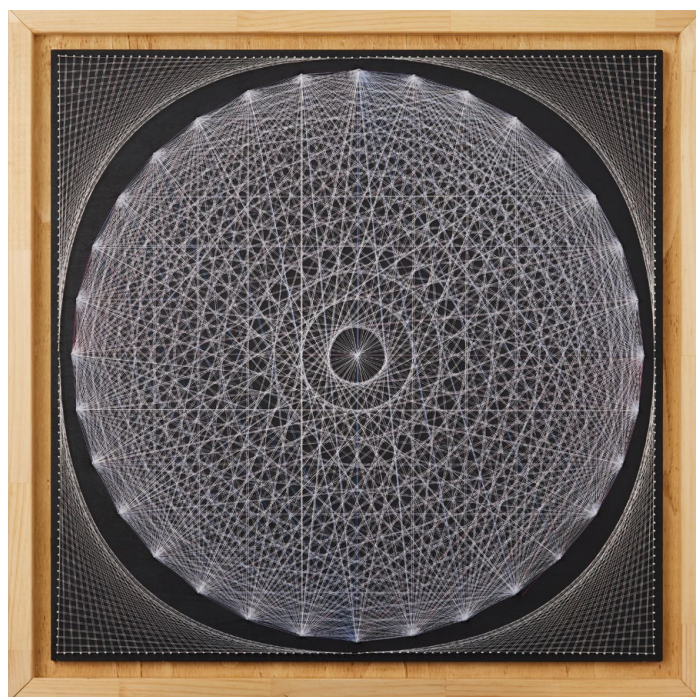


奨励賞

通勤電車

はらだ ひまわり

ガラス
30×50×10cm



かながわ賞

糸連華

鳥元 哲哉

木・釘・糸
85×85×3.5cm

かながわ賞

鴉二羽

佟 昊霖

銅・鉄

60×105×45cm



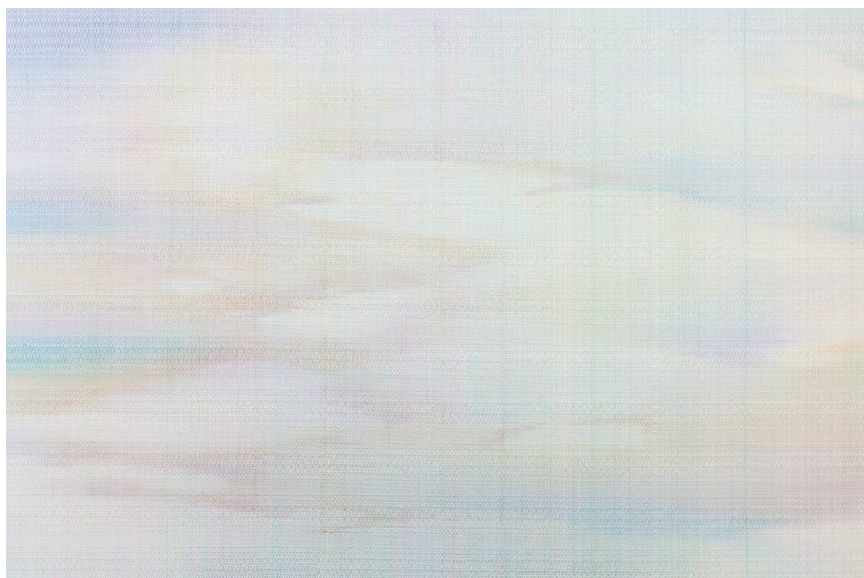
美術奨学会記念賞

夕刻

洪 詩樂

ガラス

20×36×36cm



美術奨学会記念賞

surround

西村 柊成

絹・酸性染料
60.6×91×3cm

ホテルニューグランド賞

森

LIU YUFAN

木・漆・螺鈿
51×57×5cm



今年は残念ながら出品数が減ってしまった。傑出した作品が少なく、審査員泣かせの実力伯仲といった様相を見せていた。特に作品数の多い近代詩文書の分野は、似たものが多かった。近代詩や現代文こそもっと自由に個性的な作品が多いことが望まれる。これは、最近の書道界の状況と似ている。それは、家元が存在し、徹底して型の美を学んで磨きをかけるような世界とは異なり、美術の世界ではひとり一人の美の世界が重要なはずにもかかわらず、現在の会派の中には家元制のような形になっている所も見られるからである。そのため、似た作品が多くなり、個性的な作品が減少している。こうした公募展では、会派の中の作品発表の場ではなく、自分なりの作品を出品することに意義があると思う。他の審査の先生の感想にも、層が薄くなっている気がするとか、個性がなくなって来ているという意見があった。

出品総数は116作品、全作品を順に見て、審査員全員で点数を入れた。最高得点は20点（25点満点）で、審査員が平均で4点を入れたことになる。冒頭に述べたように頭抜けたものがなかったということであろう。入選の当落の境は15点前後、これは、昨年の当落の境の点数より高い。これも実力が拮抗し、似た作品が多いことを物語っているのだろう。そこで16点から14点を再度審査員で見直し、全員の意見をもとに、多少の入れ替えをして最終的に83点の入選作品を決定した。

特別賞については、一応20点（9作品）、19点（8作品）、18点（7作品）の、合わせて24作品の中から選ぶことにしたが、念の為、その次の17点の作品も審査員で特別賞候補にあげるものがあるか確認した。また、特別賞には神奈川県在住であること、35歳以下であることなどの条件が付帯しているものがあるため、17点以上も対象として選んだ。

大賞は、昨年に続いて仮名作品が選ばれた。作者の上田昌子氏は、若い方であるが、筆線がしっかりと安定した構成を見せている。扇面を散りばめた全体構成のため、遠くから見ると迫力を感じにくい、近づくとその実力がわかる。

準大賞は、70歳代の比留川秀水氏の近代詩文であるが、似た作品も多い中で、他の作品とは異なる新鮮さを感じさせた。最近の騒がしいものと違って字間や行間の緊張感が生まれており、品格の高い作品となっている。中程の二字の部分の上下の余白が心地よい作品である。

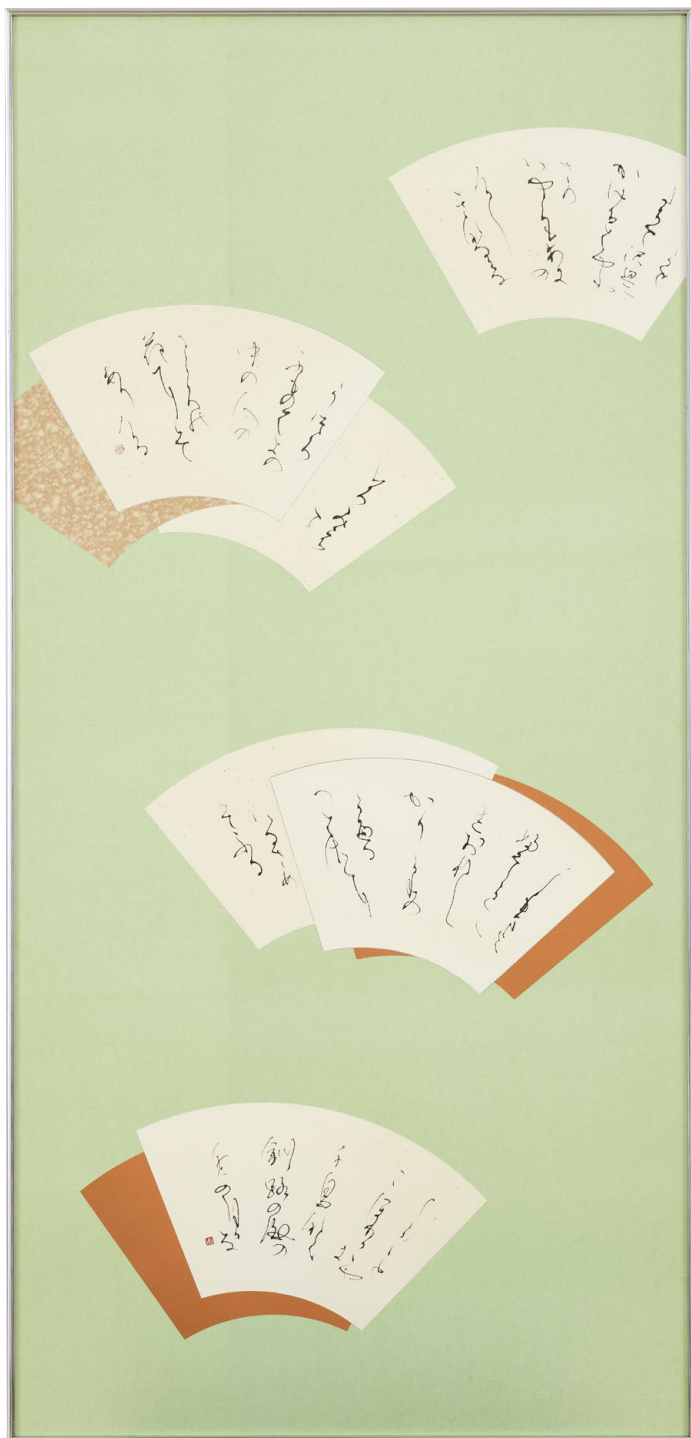
特選の浅香麗芳氏の作品は、近年知られている漢字書体を参考にして新鮮な表現をしているところが審査員に評価された。これも女性の作品であるが、漢字の作品の中の新鮮な印象を受けた中から選ばれたものである。最初から最後まで一定の調子で収められ、線も安定している。

奨励賞は、猪狩春葉氏の近代詩文書の縦の力強い作品が選ばれた。全体に線がうるさくるところを、二字目の「魔」の右側の細線と空間が不思議なアクセントになっている。

かながわ賞は、神奈川県の出品者から二人選ばれるが、一人は仮名作品で河田玲洸氏、構成と行間の美しさを感じさせるが、どこかに盛り上がり部分があるとさらによかったであろう。もう一人の楠瀬六香氏の作品は近代詩文作品で、多くの文字を縦にリズムカルに配しているが、ごく自然な書き方が好ましい。

美術奨学会記念賞は、35歳以下の出品者から選ばれる。漢字の小山蘇龍氏は、昨年も受賞しており、連続して榮譽に輝いた。線質に安定した力が見え、さらに上の賞の受賞も期待できると思う。もう一点の角田翠皎氏の仮名作品は、全体構成に優れているが、線に熟練度が見えるようになるともっと画面に緊張感が生まれてくるだろう。

県文具事務用品団体連合会賞は、近代詩文書で大山蘭翠氏の淡墨の縦作品、二行目以降の構成がうまい。字数が多いにも関わらず騒がしく見えないからであろう。



大賞

新幹線（東日本 Ver.）

上田 昌子

152×73cm

〔略歴〕

1985年生まれ 熊本県出身 神奈川県在住

2008年 大東文化大学卒業

板橋顕彰区民文化奨励賞

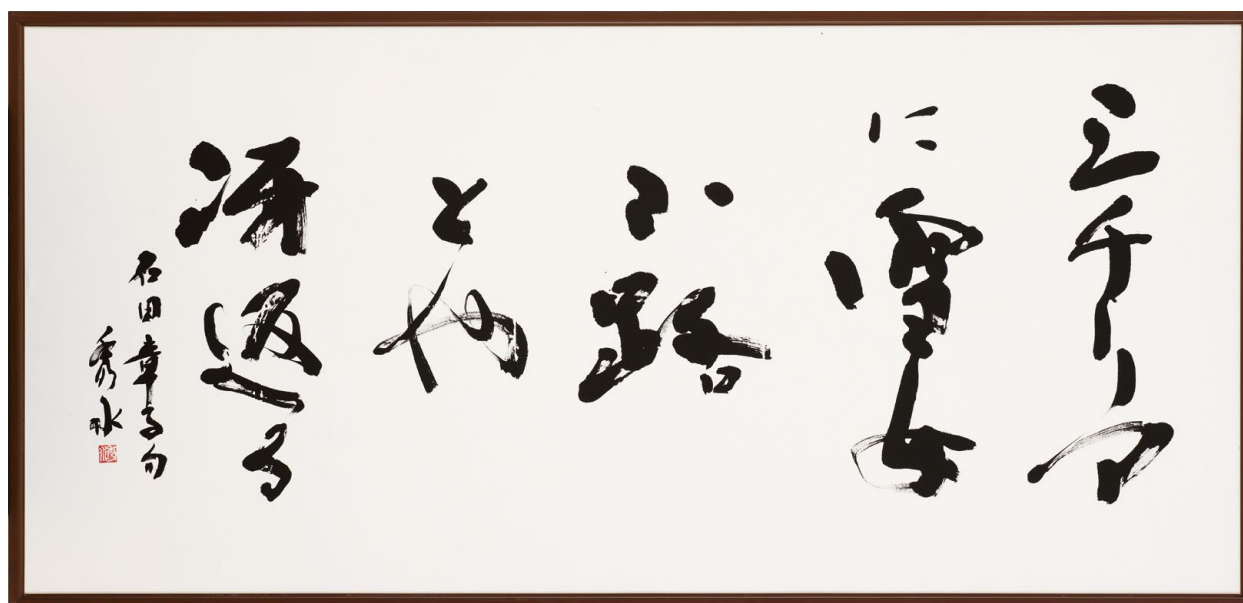
日展入選2回

読売書法会 幹事

日本の書展 秀抜選作家

書道香環会 理事

原 奈緒美に師事



準大賞

石田章子の俳句

比留川 秀水

73×152cm

[書歴]

故高嶺黙齋先生に師事
馬場紅苑先生に師事

[受賞歴]

毎日書道展
佳作賞三回
書燈社展 大作の部 (6尺×8尺)
特選一回
準特選二回
秀作賞三回
佳作賞三回



特選

王昌齡詩
淺香 麗芳

182×61cm

奨励賞

千女の句

猪狩 春葉

152×73cm

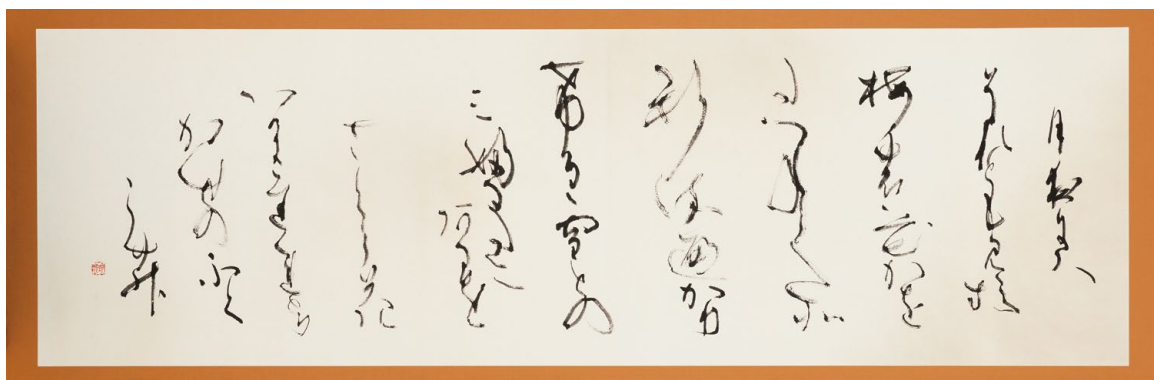


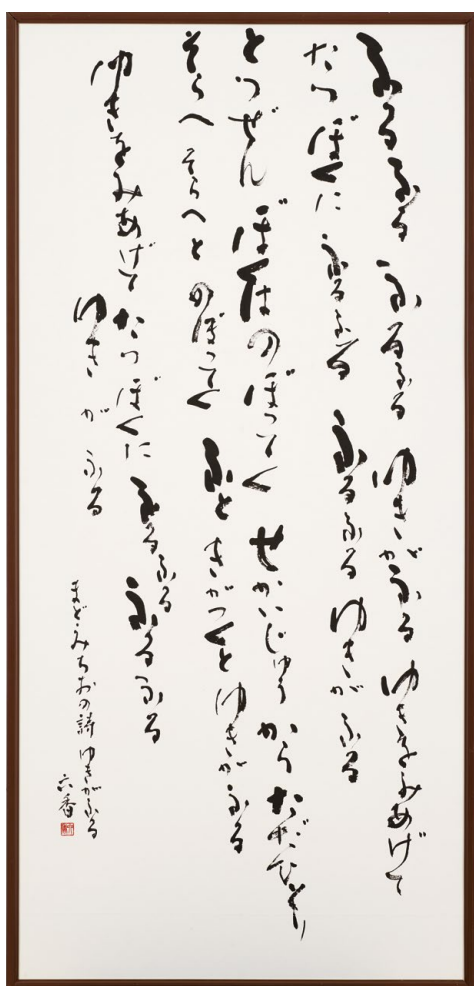
かながわ賞

月夜には

河田 玲洸

61×182cm





かながわ賞

ゆきがふる

楠瀬 六香

152×73cm

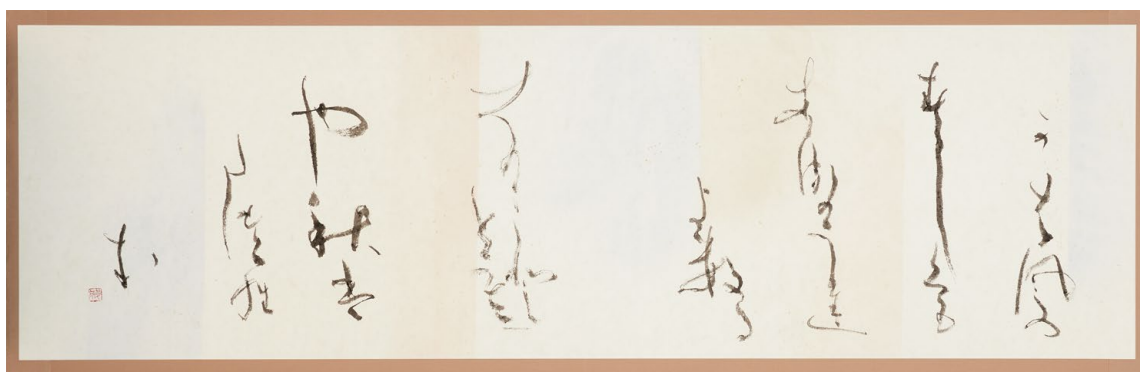
美術奨学会記念賞

強至詩一節

小山 蘇龍

61×182cm





美術奨学会記念賞

川風

角田 翠皎

61×182cm



県文具事務用品団体連合会賞

藍深く

大山 蘭翠

182×61cm

コロナ禍における移動の制限が写真表現のあり方と被写体の選択を大きく変えたことは、あらためて言うまでもないだろう。新型コロナウイルスの位置付けが「5類感染症」に移行したとはいえ、今回の応募作品もコロナ禍における生活様式の影響が少なからず感じられた。街角でのスナップやポートレートが全体的に少なく、人気のない風景を撮影したものや遠目から人間をフレームに収めたものが目についたからだ。

さて、大賞に選出された餌取裕也さんの「山岳独行」は、遠方から雪山の頂を被写体にしたモノクロ作品だ。黒い空とハイライトの白からグレーへと微妙な表情を見せる頂のグラデーションが美しいだけでなく、雪上を歩く人間の小ささと雄大な自然、そして自然によって作り出された形と人間が雪上に残した足跡とのコントラストも秀逸だった。一瞬山以外の被写体にも見え、見る側のスケール感の混乱をきたすような作品となっている。

準大賞に選出された近藤まさきさんの「水模様、鳥模様」は、水鳥の羽や足をクローズアップ気味に捉えた作品だ。水に濡れた水鳥の体の部分と水鳥の動きにより変化する水の形象を巧みに切り取ったもので、いわゆる「ネイチャーフォト」とは言い難いような、独特の魅力を有している。3点の連作による色の配置も見事だった。

特選は當麻妙さんの「The voice that's calling 02」で、審査員の間でもその見方をめぐって議論を呼んだ3連作だった。移動する視点が捉えた風景がテーマかと思いきや残りの2枚目は煙が立ち込める山をめぐる観光客を遠目から撮影した風景写真となっており、3枚目はまた別の山と谷川の風景が同じく遠目から捉えられている。季節も場所も撮影方法も異なる3連作は、困惑を引き起こしながらも審査員の目を引いたようだ。見る側の解釈を逃れ、ズラしていくような風景写真の連作だと言える。

奨励賞は長尾マサキさんの「planetia」だ。撮影地は不明だが、荒涼とした地表に点々と植物が繁茂する風景を捉えた連作は、地球とは異なる別の惑星の

風景を思わせる。霧と雲と地表の白が混じり合ってタルコフスキーの映画に出てくるような幻想的な風景となっていた。

かながわ賞に選ばれたのは、八代一二さんの「盆景」だ。雪の上に顔を出した地表や木の枝を盆栽に見立て、箱庭的な風景を作り出している。カラー作品だが、モノクロの水墨画のようにも見え、自然が偶然作り出した風景をフレーミングとプリントによって必然的なものに変えているばかりでなく、部分を切り取る写真と箱庭的な風景のつながりを感じさせてくれる作品だった。

もう一人のかながわ賞は、勢井浩二郎さんの「Nightcrawler」が選出された。2枚の夜景とポートレートが組み合わされた3連作で、すべての写真にピントが合っていない。いわゆる「ピンボケ」は、一般的には低い評価を下されてもおかしくないものだが、審査員はその効果を肯定的に受け取った。たった3枚だが、この流れの中にロードムービーのような偶発的な出会いと時間の奥行きを感じさせてくれる作品となっていた。

今回の応募総数は、過去3回を大きく上回る結果となった。それもまたコロナ禍の収束が影響しているのかもしれないが、前述のように被写体の選択や被写体との距離という以外に今という時代を反映しているような内容の作品があまり見られなかったような印象だ。写真そのものというのではなく、常に何かの写真であることを鑑みれば、写真作品というのは、各表現者が時代状況や社会とどのように向き合ったかの記録という側面もある。今後、そのような作品が増えていけばいいと思う。



大賞

山岳独行
餌取 裕也

[略歴]

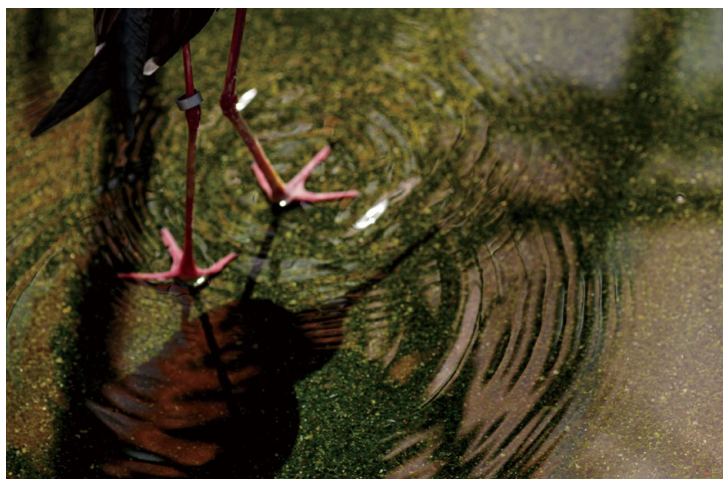
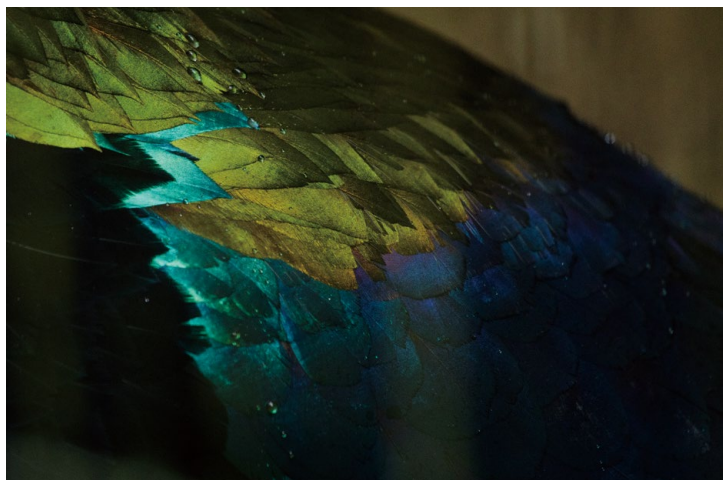
1989年 北海道生まれ
2011年 小樽商科大学卒業

[展示]

2021年 個展 Friction reflection
2022年 個展 Hokkaido

[受賞歴]

第44回 船橋市写真展 北井一夫賞



準大賞

水模様、鳥模様

近藤 まさき

〔略歴〕

1991年 神奈川県生まれ

2022年 フォトショップHAZUI

小林教室 在籍

2023年 個展「fun.2023 ～てまえどり～」

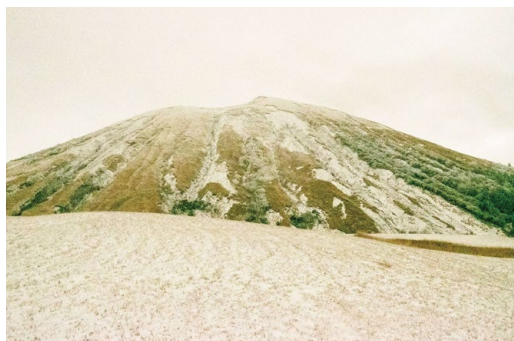
フォトショップHAZUI



特選

The voice that's calling 02

當麻 妙



奨励賞

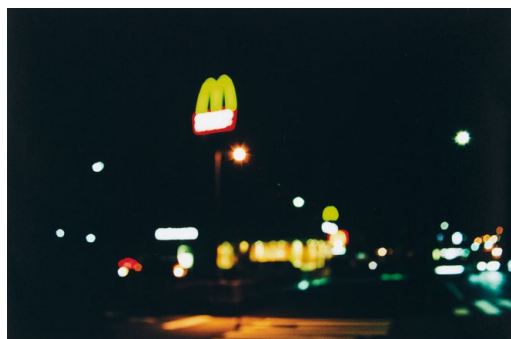
planetia

長尾 マサキ

かながわ賞

Nightcrawler

勢井 浩二郎



かながわ賞

盆景

八代 一二



美術奨学会記念賞

Hypnopompic Hallucinations

殷 鶯

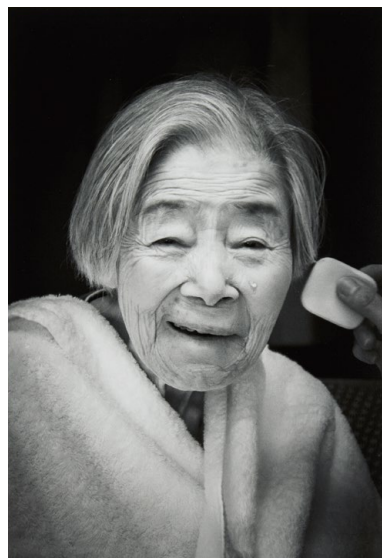
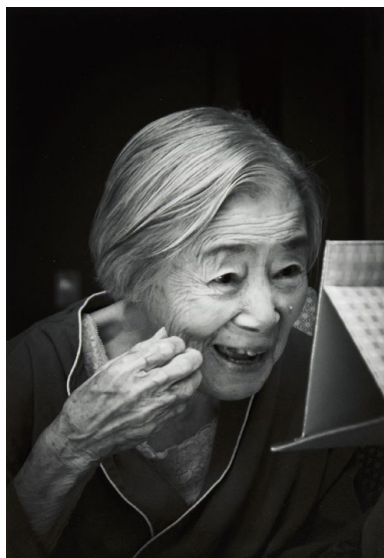




美術奨学会記念賞

空魄庭園

山田 龍



神奈川新聞社賞

卒寿の輝き

野田 光治

人から人へ情報を伝えて76年
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式
会社 **気生堂印刷所**
<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号
Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976
e-mail: print@kiseido.jp

The 58th Kanagawa Art Exhibition 2023
第58回 神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール内
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
TEL. 045-662-5901 (代)

写真撮影：秋葉雅士
印刷：株式会社気生堂印刷所
発行：2023年9月6日



The background of the entire page is decorated with numerous orange-colored splatters and dots of varying sizes. These are most densely clustered in the top-left and bottom-left corners, with more sparse, isolated dots scattered across the rest of the white background.

THE 58TH
KANAGAWA ART EXHIBITION
2023